

## 大阪市立自然史博物館のオンライン上での普及活動についてのアンケート結果

大阪市立自然史博物館では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、2020年2月下旬から行事を行えない状態が続いていました。そのような中でも、今できる普及活動をしていこうと、しばらくの間、オンライン上での活動に力を入れていくことになりました。オンライン上での普及活動を展開するにあたり、大阪市立自然史博物館の友の会会員の皆さんや博物館ファンの皆さんがどのようなことを望まれているのかを調査するため、2020年5月8日～31日に、ウェブアンケートを実施しました。回答してくださった方の多くが、非常に丁寧に建設的なご意見を書いてくださり、励ましの言葉もたくさんいただきました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。ウェブアンケートの結果と、これまでおよび今後の活動についてご報告します。

### ■調査方法

実施したウェブアンケートはこちらからご覧いただけます。

[http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jitaku/omnh\\_online\\_anq\\_2020.pdf](http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jitaku/omnh_online_anq_2020.pdf)

2020年5月上旬～中旬に、大阪市立自然史博物館および友の会に関連するメーリングリスト、友の会会誌 Nature Study の封筒コラム、および博物館ホームページの新着情報にて、アンケートの案内をしました。アンケートの期日は5月31日までとしました。

### ■アンケート結果

130件の回答があり、その内訳は、友の会会員 91件（70%）、非会員 30件（23%）、元会員 9件（7%）でした。

【設問 1. ウェブ上で博物館で行ってほしい活動は？（複数選択可）】（図 1）

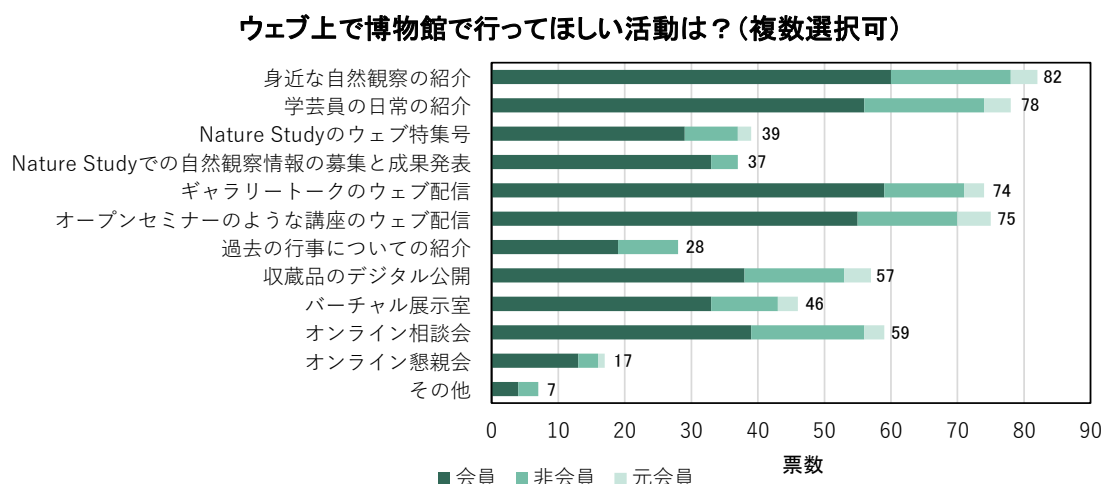


図 1. 設問 1「ウェブ上で博物館に行ってほしい活動は？（複数選択可）」の回答（スペースの都合により、選択肢の一部を略記）

選択肢の中で特に得票数の多かったのは「Twitter（#おさんぽミュージアム）で行っているような身近な自然観察の紹介」、「Twitter（#学芸員のおしごと）で行っているような学芸員の日常の紹介」、「オープンセミナーのような講座のウェブ配信」、「特別展『知るからはじめる外来生物』を紹介するギャラリートークのウェブ配信」でした。次いで、比較的得票数が多かったのは「収蔵品のデジタル公開」、「学芸員に質問したり相談したりできるオンライン相談会」でした。また、「博物館の展示室がおうちで見られるバーチャル展示室」、「大阪市立自然史博物館友の会会誌 Nature Study のウェブ特集号」、「大阪市立自然史博物館友の会会誌 Nature Study での自然観察情報の募集と成果発表」についても一定の需要があることが分かりました。

【設問 2. 博物館のオンライン上での活動にあなたが特に求めるものはなんですか？】（図 2）

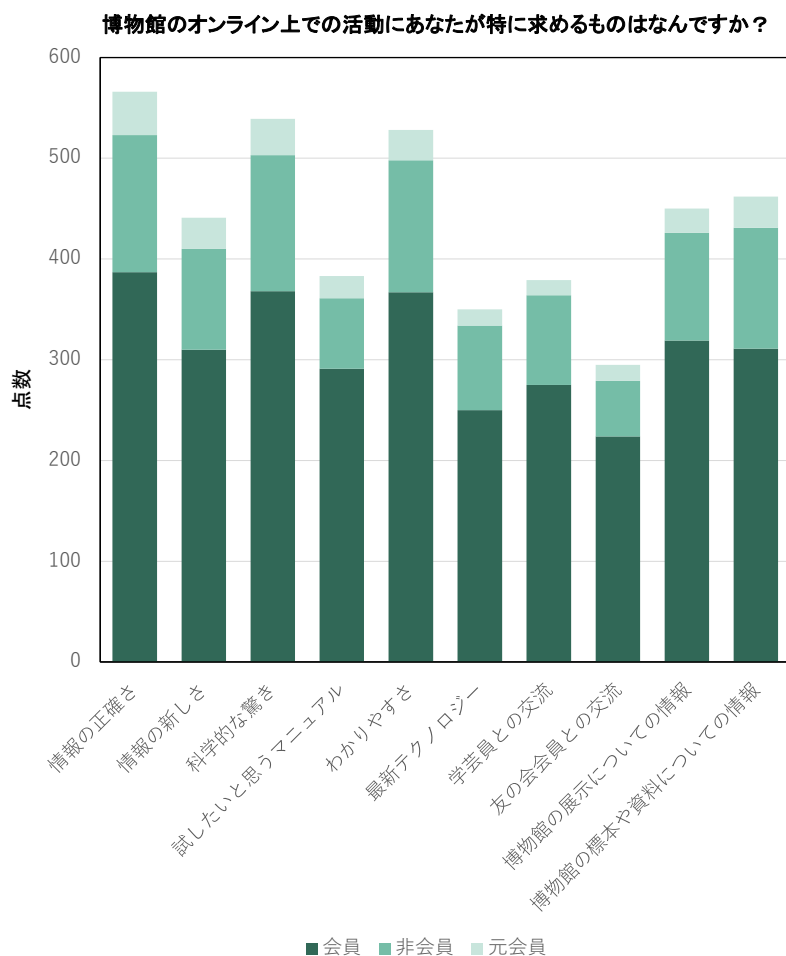


図 2. 設問 2「博物館のオンライン上での活動にあなたが特に求めるものはなんですか？」の結果（それほど気にしない＝1 点、できれば＝2 点、わからない＝3 点、求めている＝4 点、強く求めている＝5 点として点数化）

それぞれの項目に対する回答を点数化し（それほど気にしない＝1 点、できれば＝2 点、わからない＝3 点、求めている＝4 点、強く求めている＝5 点）、合計したものを各項目の点数としました。その結果、点数が特に高かったもの（強く求めるもの）は「情報の正確さ」、「科学的な驚き」、「わかりやすさ」で、次いで「博物館の標本や資料についての情報」、「博物館の展示についての情報」などとなりました。

【設問 3. ステイ・ホーム（おうちにいよう）が要請されるなか、自然に関わってどんなことをされていますか？よろしければ近況について教えてください。】

110 件もの回答をいただきました。なかなか遠出ができない中でも、多くの方が身近な自然に興味を持って生活されており、「散歩がてら」「買い物の途中で」「庭で」など、自宅の

周辺で昆虫や植物、鳥などの観察や写真撮影をしたり、自宅で生物を飼育したりしているという回答が目立ちました。ただ、中には「ほとんど自然にふれることができていない」というような回答も見受けられました。

【設問 4. 博物館の活動が十分にできない中、今後の普及活動についてご意見やご提案がありましたらお願いします。】

82 件の多様な回答をいただきました。圧倒的に多かったのが、自分自身で身近な自然を観察する際の手助けになるようなコンテンツや観察場所の紹介などを求める声でした。セミナーやトーク、展示の動画配信を求める声も目立ちました。また、Twitter だけではなく、YouTube や Facebook、インスタグラム、LINE などさまざまなサービスを利用して情報発信することを希望する声も比較的多い印象を受けました。一方で、無理をしてオンライン上での普及活動に力を入れなくてもよいので、普段はできないような収蔵品整理や展示更新、新しい行事の計画などをしてほしいというコメントもありました。このほか、博物館活動に対する応援や励ましのメッセージも数多くいただきました。

#### ■アンケート結果のまとめ

身近な自然観察の紹介や観察のヒントになるような情報を求める声が特に多い印象でした。また、開幕が見合わせられていた特別展「知るからはじめる外来生物」の展示紹介やギャラリートーク、その他のセミナーやトークの動画配信のほか、収蔵品や常設展を紹介する画像の公開、さらに学芸員の日常や相談会など、学芸員についての情報や学芸員との交流を希望する声も多くありました。

#### ■これまで・今後のオンライン上の活動について

##### 【これまでの主な活動】

友の会評議員会での意見や博物館側が発信したい情報、そして今回のアンケートの回答状況などをふまえて、オンライン上で多くのコンテンツを公開してきました（リンク先は、博物館ホームページの「おうちで楽しむ自然史博物館」のページでまとめられています→<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jitaku.html>）。

##### ○ギャラリートーク（YouTube で配信）

- ・ 2020 年の特別展「知るからはじめる外来生物」の展示解説
- ・ 『岸川椿蔵書』の展示解説
- ・ 2017 年の特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」の展示解説
- ・ 2016 年の特別展「氷河時代 化石でたどる日本の気候変動」の展示解説
- ・ 常設展の解説（ナウマンホール）

##### ○オープンセミナー（YouTube で配信）

- ・ アングラ収蔵庫トーク

○中止になった観察会の記録・資料

- ・植物園案内のレポート
- ・ビオトープのイベントレポート
- ・「やさしい自然観察会 レンゲ畑のいきもの」の資料

○Twitter での活動

- #学芸員のおしごと（学芸員の日常や仕事の紹介）
- #外来生物展（外来生物展に関する情報）
- #おさんぽミュージアム（身近な自然に関する情報）
- #今日の昆虫（松本学芸員の美しい昆虫写真）
- #柏餅調査（柏餅に使われている葉の分布調査）

○360 度パノラマ写真（VR 画像）

- ・第二展示室
- ・ポーチ（ナガスクジラ・マッコウクジラの骨）
- ・2018 年の特別展「きのこ！キノコ！木の子！」の展示

○Nature Study

- ・身近な自然に関する過去の記事の公開（[http://www.omnh.net/ns\\_special.html](http://www.omnh.net/ns_special.html)）
- ・身近な自然調査の紹介やその結果報告（オンライン上の活動ではありませんが、行事の中止を受け、新たに始めた活動です）

【今後の活動】

アンケートで希望が多かった活動の大部分については、ある程度これまでの活動の中に取り入れることができていると考えていますが、収蔵品の公開や学芸員との交流については、あまりカバーできていません。今後は、これまでの活動を無理のない範囲で続けると同時に、収蔵品に関する画像や解説動画を取り入れたり、オープンセミナーをライブ配信するなどして、オンライン上で学芸員と交流できるスタイルも模索していく予定です。

今回のウェブアンケートの結果は、今回の新型コロナウイルス感染症の影響下の活動だけでなく、オンライン上での新しい博物館活動を模索するための貴重な手掛かりとなりました。アンケート結果を参考に、少しでも皆さんが望む活動をしていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2020 年 6 月

松井 彰子（大阪市立自然史博物館 学芸員）